学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

京丹後市

事業名

英語力向上アプリ導入事業

事業の経過・背景・課題

将来グローバル社会で活躍できる人材を育成することを目的に、発音とスピーキング能力を中心とした英語力の向上を図るため、令和4年度より中学2年生を対象に英語力向上アプリ「ELSA Speak」を各生徒が使用するタブレットに導入。学校での学習時のみに使用するだけでなく、家庭学習でも使用した。

令和5年度は、新たに中学1・3年生を追加し、中学校に通う全生徒が当該アプリを活用し、学校と各家庭において英語力を高める。

取組内容

交付実績額：　1,964　千円

・学校及び家庭学習でのアプリ活用による発音やスピーキング能力を中心とした学習の実施
・夏休み等長期休暇を活用したReading Contestの開催や利用促進のための取組を実施
・教職員対象のに当該アプリを熟知し、授業改善等のアドバイスをする専門員等による効果的なアプリ活用のための講座・意見交換会の開催（年４回）
・同じアプリを導入している先進校を視察

〔ELSA Speak〕
・GoogleのＡＩ投資部門のサポートを受けて開発された独自ＡＩ音声認識技術を有する、英語の発音とスピーキングに特化したアプリ
・教育現場でのスピーキング指導の必要性に対応しており、ＡＩが作成する個別カリキュラムで短期間にスピーキング力を向上させることができる。
・世界 100 カ国以上、5,400 万人に利用されており、英検、IELTS、TOEFL 受験者のスピーキング対策や、TOEIC 受験者のリスニング対策で高い評価を得ている。
・京都大学、ライス大学（アメリカ）、南洋理工大学（シンガポール）、同志社中学校など世界中の教育機関での導入が進んでいる

事業の成果・今後の展望等

〇生徒の英語力の向上（全国学力学習状況調査において全国平均より高い結果が得られた）
〇英語学習への意欲向上（発音を向上させ、英語の「話す」「聞く」に自信をつけさせることができた）
〇教員が生徒の学習状況を把握し、苦手分野の指導など授業での効果を高めることができた。
〇様々な仕掛けを行うことで、生徒の学びを継続させるとともに、生徒の学ぶ意欲の向上を図る。
〇アプリでの学習結果などのデータをより活用することで、効果的な授業づくりを行う。

問い合わせ先　京丹後市教育委員会学校教育課（0772-69-0620）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

京丹後市

事業名

STEAM教育推進事業

事業の経過・背景・課題

中学生においては、学びへの意欲をさらに高め、キャリアに対する目的意識を明確にすることが求められるとともに、ＳＴＥＭ（科学・技術・工学・数学）分野への興味や関心を育むことも重要になっている。

国際感覚を持ち将来グローバル社会で活躍できる人材を育成するため、総合的な学習の時間を活用した丹後学に文系・理系の枠を超えた学びであるＳＴＥＡＭ教育とデザイン思考を掛け合わせ、答えのない問いに英語で取り組む融合プログラムの開発をすすめている。

取組内容

交付実績額：　2,607　千円

・地元のニーズ等に対して「正しいこと」に捉われない自由な発想で探究学習を行うことで、国際感覚を持ち将来グローバル社会で活躍できるクリエイティブな人材の育成に取り組む
・スタンフォード大学（アメリカ）とトロント大学（カナダ）の現役研究者が率いる一般社団法人スカイラボと連携し、中高生とそれをサポートする国内外の大学生、地元企業関係者とともに、シリコンバレーで注目される発想のメソッド「デザイン思考」を学ぶ探究型ワークショップを英語を介して実施

〔丹後学（地域探究学習）×デザイン思考×STEAM教育の６日間プログラム〕（※）
・ＳＤＧｓを切り口として、ＳＴＥＡＭ関連の地元企業から仕事の魅力や抱える課題等を共有
・各グループがインタビューを通して企業が抱えるニーズや課題を把握
・課題解決に資するアイデアを出し合い、具体化する
・試行錯誤を繰り返しながら、最終的な成果をプレゼン

（※）総合的な学習の時間を活用した「丹後学」に文系・理系の枠を超えた学びであるＳＴＥＡＭ教育とデザイン思考を掛け合わせ、答えのない問いに英語で取り組む

事業の成果・今後の展望等

〇普段の授業とは異なる観点から郷土への愛着と誇りを育むとともに、国際感覚を持ち、グローバル社会で活躍できるイノベーティブなリーダー人材を育成することができた。
〇地域課題に目を向け、答えのない問いに取り組む本プログラムは、どんな意見も否定せず、自由な発想や意見を述べることができる。その環境は、子どもたちの豊かな発想を引き出すことを実現することができ、子どもたちが安心して発信する場となった。
〇STEM領域に多く触れる機会の提供をとおして興味関心を高めるとともに、郷土への愛着と誇りを育むための素材の掘り起こし等、更なるプログラムの改良を図る。

問い合わせ先　京丹後市教育委員会学校教育課（0772-69-0620）

報道資料

～どこまでも広がる　みらいのまちを創造する～
「Kyotango Sea Labo」
このまちの未来を一緒にデザインしたい中高生募集！

令和５年４月28日
京丹後市教育委員会

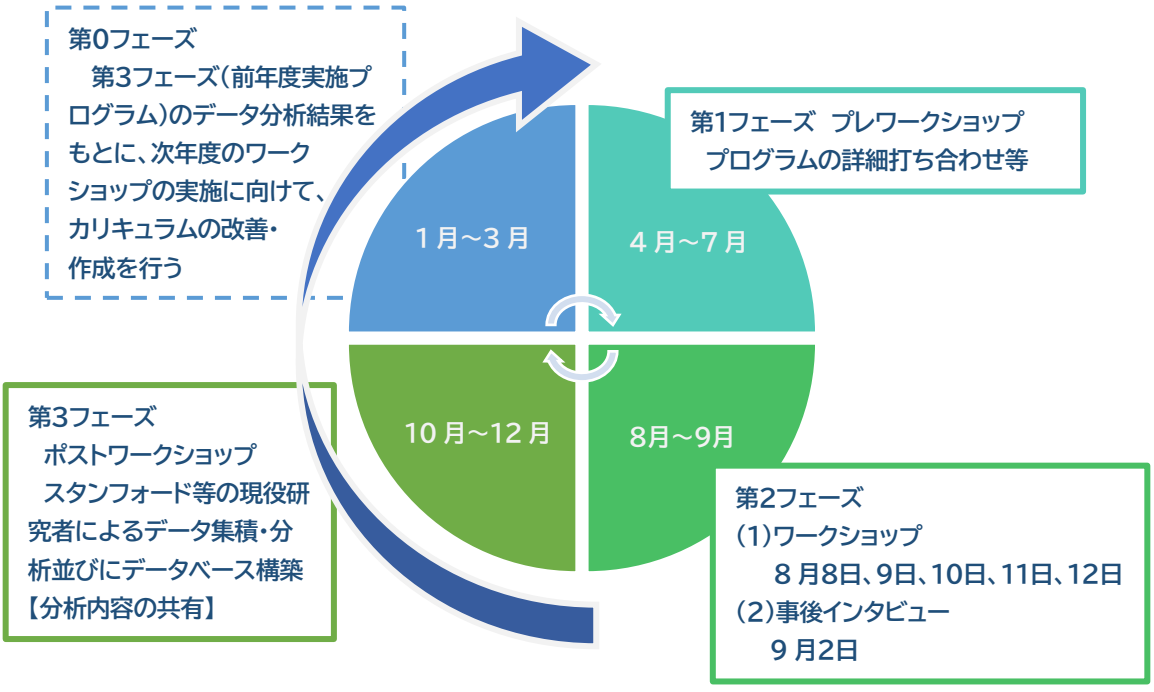
京丹後市教育委員会は、スタンフォード大学（アメリカ）、トロント大学（カナダ）の現役研究者が率いる一般社団法人スカイラボ（※１）と連携し、京丹後市の中高生にカスタマイズした「丹後学（地域探究学習）×デザイン思考（※２）×STEAM 教育（※３）」の融合プログラムの開発を進めています。

本市の産業集積の特色等を生かしつつ、SDGｓを使い STEAM 教育を通して、「国際感覚を持ち、グローバル社会で活躍できるイノベーティブなリーダー人材を育てる」ことを目指します。

１．プログラムの概要

今年度のプログラムのビジョンは、「人間中心の発想と STEM（※４）の知識でグローバル人材としての視点を身に付け、京丹後市の未来をデザインする次世代リーダーを育てる」とし、「デザイン思考」をその発想法として、「SDGs」を課題の切り口として、学びを深めていきます。

プログラムは、１年間を３フェーズで構成し、３年間をかけて開発していきます。



第３フェーズ後、スタンフォード大学等の現役研究者によるデータ結果を教育現場に波及させ、京丹後市の生徒の「創造性への自信の向上」「自己肯定感の向上」「キャリアに対する意識変革」「STEAM 分野の学力向上」への変容に迫ります。

このフェーズの EBPM サイクルを繰り返し、令和４年度～令和６年度の３年をかけて京丹後市にカスタマイズされたプログラムの開発を進め、令和７年度からは、京丹後市独自の推進を目指します。

２．第２フェーズ　ワークショップの概要

ワークショップは、京丹後市立中学校に通う中学３年生及び市内在住の高校２年生を対像とし、すべてのワークショップを英語で行います。

ワークショップ参加者は、中高生だけでなく、下記の方々にも参加していただく予定です。

●スタンフォード大学等の研究者（以下「研究者」）

●地元企業の関係者（以下「ユーザー」）９名

STEM 分野に係る地元企業等の関係者をユーザーとします。

ワークショップで、それぞれの分野における良さや課題を中高生へ伝え、中高生がその課題に着目してまちの未来のデザインするサポートをします。

●現役大学生・大学院生のデザインシンキングコーチ（以下「DTC」）９名

STEM 領域で学んでおり、英語と日本語のどちらも話せる現役大学生・大学院生をデザインシンキングコーチとしています。中高生が「デザイン思考」学ぶとき、英語で行われるワークショップの進行等をサポートし、中高生と交わって議論を進めます。

【現在募集中！応募締切：５月２１日（日）午後１１時】

（１）ワークショップ開催日時・場所

ア　開催日時

プログラムの日程	プログラムの内容
Day１　８月８日（火） 9:00－16:30	・京丹後市における SDGｓについて、チームで考察 ・講話・ワークショップ「データでみる京丹後市」
Day２　８月９日（水） 9:00－15:30	・地元企業の協力で、京丹後市の良さと課題の抽出 （工場見学をとおして、本物に触れる機会の創出）
Day３　８月 10 日（木） 9:00－16:30	・研究者が来丹し、対面でのワークショップを開催。 デザイン思考を５つのフェーズ（①リサーチ　②分析　③シンセサイズ　④ビルド　⑤テスト）に分けて、探求型カリキュラムを通して、ものづくりの課題解決のため
Day４　８月 11 日（金・祝） 9:00－16:30	

Day５　8月 12 日（土） 9:00 - 16:30	の人間中心の「新しい発想方法」を学びます。（デザイン思考・STEAM 教育） ・ユーザーへのインタビューやフィードバックを通して、プロトタイプを作り、最終日に英語でのプレゼンテーションを行います。
Day６　9月2日（土） 9:00　- 12:00	【まとめと振り返り】 ・研究者（オンライン）とインタビュー形式でワークショップ全体のまとめと振り返りを行います。

※参加者へのインタビューなど当日の取材に関する詳細は、ワークショップ開催前に改めてご案内します。

イ　開催場所
京都産業 21　北部支援センター（峰山町荒山 225）

（2）中高生の参加者募集の概要
ア　募集人数　京丹後市立６中学校に通う中学３年生　２４名
市内在住高校２年生　１２名
イ　応募資格　①プログラムの全日程に参加できること
②以下の英語力を持つもの（資格については、実際に取得がなくともそのレベルの英語力を持っていれば応募可能としています。）
中学３年生：英語検定３級レベル
高校２年生：英語検定準２級レベル
ウ　応募期間　令和５年５月 15 日（月）～６月５日（月）
エ　応募方法　応募フォームに、参加意思申出書に係る内容及び作文入力

（3）参加者の決定
申込書類と面接結果をもとに決定します。

3．予算
５，４０４千円

4．参考資料
導入背景や展望など詳細は別紙資料をご覧ください。

備考

※１　一般財団法人スカイラボ

・スタンフォード大学で博士号を取得し、シリコンバレーで子育てをしていた日本出身の女性たちが、教育や人文・社会科学といった自分たちの専門性を使って、STEM 領域の男女格差を是正するために何かできないだろうかと、スカイラボを 2016 年に設立。
・スカイラボは、STEM ステム領域に、Liberal Arts リベラルアーツを加えた STEAM 教育により、次世代のイノベーション人材を育成する非営利団体。
・スカイラボでは参加者が学習する様子をデータとして収集・分析し、エビデンスベースの教育活動を実施しており、同プログラムは 2019 年に内閣府男女共同参画局から後援の認定を取得。
・2020 年に内閣府有識者懇談会に参加（STEM:21 世紀の教育と人材育成）

※２　デザイン思考

徹底的にユーザーへの気持ちや感じ方に寄り添って発想するのがデザイン思考です。

デザイン思考では、数多くのアイデアを出してみる事、スケッチを書いたり、流れを紙に描いたり、プロトタイプ（模型）をつくったりすることを、とても大切にしています。思い付きを越えに出してみて、手を動かして考えて、ひとまず目に見える形にしてみる。そうすると、もっとこうしたらいいかもしれない、という発見が見えてきます。それにさらなる改善や修正を施して、また、プロトタイプをつくってみる。

この繰り返しの中で、本当に人を中心に考えた製品や解決方法を編み出すことができるようになるのです。　＜スカイラボ HP より＞

※３　STEAM 教育

Science 科学・Technology テクノロジー・Engineering エンジニアリング・Mathematics 数学（通称 STEM ステム領域）に、Liberal Arts リベラルアーツを加えた理系教育に創造性教育を加えた教育理念

※４　STEM 教育

Science 科学・Technology テクノロジー・Engineering エンジニアリング・Mathematics 数学のそれぞれの頭文字をとった言葉で、化学・技術・工学・数学の教育分野を総称した言葉。新たな時代に必要とされる「自分で学び、自分で理解していく子ども」（自発性・創造性・判断力・問題解決力）を養うことを本質的なねらいとする教育

［問い合わせ先］
京丹後市教育員会事務局学校教育課
担当：松本・戸田
TEL　0772-69-0620／FAX　0772-68-9061

どこまでも広がる　みらいのまちを創造する

Kyotango Sea Labo’23　中高生参加者募集のお知らせ

英語×デザイン思考×STEAMで「人間中心のものづくり」について学んでみませんか？

アメリカスタンフォード大学とカナダトロント大学の研究者と連携した「どこまでも広がる　未来のまちを創造する Kyotango Sea Labo」プログラムの参加者を募集します。

このプログラムは、これからの社会を生きていく中高生に、「海の向こうのいろいろな人たちと交流してほしい」「大きな海＝可能性＝活躍の場で存分に遊び、発見し、学んでほしい」という思いを込め、京丹後市の素材を使った「人間中心のものづくりの発想」を海外大学の研究者から直接学ぶ機会を提供します。

＊本プログラム参加者には、全日程終了後、スタンフォード大学、トロント大学の現役研究者及び京丹後市教育員会名を記載した参加証明書を発行します。

‘22参加者の声で説明するプログラムの流れ

地元企業関係者から引き出す京丹後市のよさや課題

京丹後市から新しいものが生み出される可能性を感じた！

●京丹後市には新しい考えやすばらしい考えをもっている人がたくさんいて、それを具体化、実現化している人がいることを知った！
●京丹後市をもっとよくしようとしている人がいることがこのまちの強み！そういう考えがなかったら何も始まらないと思った！

人間中心のものづくりの発想を学ぶ過程

課題解決のための人間中心の「新しい発想方法」を学べた！

●自分の殻を破って、積極的に発言することを大切にしてほしいなと思います。英語に自信がなくても、伝えようと頑張ったら周りの人たちはみんな理解してくれます。不安な部分もあると思うけれど、このワークショップに挑戦しようと思っただけで素晴らしいです！
●とにかくチャレンジ！迷ったら全部やってみることが大事！
●Sea Laboに参加して、自分の考えをどうやったら言語化できるのか、ものとして表現できるのかを考えられるようになった。意見を交流していく中で他の人の考えも参考にすれば、どのようにより良くなるのかが詳しくわかるようになった。

仲間と考えたアイデアを英語で発表

自分たちの思いや考えを英語で発表した！達成感を得た！

●今まで考えてきたたくさんのことをまとめることや英語で表現することは、とても面白かった。伝わってほしいなという気持ちを込めて発表できた！
●大学生のサポートで自信がついたし、誰とでもつながることができる英語力が身についた。

どこまでも広がる　みらいのまちを創造する Kyotango Sea Labo 京丹後市教育委員会

【Kyotango Sea Laboのプログラムの概要】

プログラムは、すべて英語を介して行います。
研修形態は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をとり、集合型で行います。
開催場所は、「京都産業21北部支援センター」(峰山町荒山225)とします。

プログラムの日程	プログラムの内容
Day 1 **8月8日(火)** 9:00 – 16:30	オリエンテーション チームの仲間との関係を築きながら、京丹後市をあらゆる角度から分析していきます。
Day 2 **8月9日(水)** 9:00 – 15:30	リサーチ 京丹後市の企業の方のお話を通して、京丹後市のよさと課題を掘り起こしていきます。
Day 3 **8月10日(木)** 9:00 - 16:30	ワークショップ ●スタンフォード大学、トロント大学の研究者が来丹し、対面ワークショップを開催。グループワークでは、バイリンガルの大学生・大学院生が各グループに1名ガイダンス役として、コミュニケーション面のサポートを行います。 ●デザイン思考を5つのフェーズ(段階)に分けて、テーマに基づくアイデアを深めていきます。 ●地元企業の関係者へのインタビューやフィードバックを通して、プロトタイプを作り、最終日に英語でプレゼンテーションを行います。
Day 4 **8月11日(金・祝)** 9:00 - 16:30	
Day 5 **8月12日(土)** 9:00 – 16:30	
Day 6 **9月2日(土)** 9:00 – 12:00	**フォーカスグループインタビュー** インタビュー形式で、ワークショップ全体のまとめと振り返りを行います。(Day 6のみオンラインで実施)

【募集要項】

募集人数: 市内6中学校に通う中学3年生　24名
市内在住高校2年生　12名

応募資格: ①プログラムの全日程に参加できること
②以下の英語力を有するもの
中学3年生:英語検定3級
高校2年生:英語検定準2級
※取得していなくても、
そのレベルの英語力があれば応募可能

応募期間: 令和5年5月15日(月)～6月9日(金)

応募方法と応募先:右の二次元コードを読み取って、
必要事項を入力し送付
(内容:募集要項・申込内容・作文)

参加者の決定: 申込者を対象に面接を実施します。
(面接日については、後日連絡いたします。)
申込書類と面接結果をもとに選考委員会を開催し、
結果を通知します。

問い合わせ先: 京丹後市教育委員会(担当:戸田、松本)
電話　0772-69-0620

【備考】
・Day 1から、英語でのプログラムとなります。プログラムには、英語・日本語のバイリンガルの大学生等が参加し、言語面のサポートを行います。
・本事業は「丹後学×*デザイン思考×*STEAM教育」の融合プログラムであり、アメリカスタンフォード大学、カナダトロント大学の現役研究者が率いる一般社団法人　スカイラボと連携した活動となります。
＊デザイン思考とは、人間中心のものづくりの発想・思考法
＊STEAM教育とは、科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、アート（Art）、数学（Mathematics）の5つの領域を対象とした理数教育に文系要素である創造性教育を加えた教育理念です。知る（探究）とつくる（創造）のサイクルを生み出す、分野横断的な学びを意味します。

どこまでも広がる　みらいのまちを創造する　Kyotango Sea Labo　京丹後市教育委員会

京丹後市で、デザイン思考✖STEAM教育を学んでみませんか？

京都府京丹後市教育委員会

京丹後市グローバル人材育成事業

***京丹後市**では、世界に目を向けながら、地域社会に発展的貢献ができる人材や、国際感覚をもち将来グローバル社会で活躍できる人材を育成するため、多様な価値に触れる事業を創出しています。
その1つに、**「どこまでも広がる　みらいのまちを創造する　Kyotango Sea Labo」**があります。
このプログラムは、京丹後市教育委員会と***一般社団法人スカイラボ**が連携した、「丹後学（地域探究学習）xデザイン思考xSTEAM教育」の新しい教育プログラムです。
5日間の対面式ワークショップは、京丹後市の中高生（中学3年生・高校2年生）を対象とし、英語を介して行います。プログラムのビジョンは、「京丹後市の良さを学び、コミュニティの課題を考え、人間中心の発想でステムの知識を役立てるグローバル人材としての視点を身に付けて、京丹後市の未来をデザインする次世代リーダーを育てる」とし、その発想のメソッドとして「デザイン思考」を、課題の切り口として「SDGs」を使い、学びを深めていくこととしています。

中高生の教育プログラムをサポートするデザインシンキングコーチを募集

「どこまでも広がる　みらいのまちを創造する　Kyotango Sea Labo」は、英語で行われるワークショップの進行をサポートし、実際に中高生と交わって議論を進めていただく、英語・日本語どちらも話せる大学生・大学院生をDesign Thinking Coach（以下、DTC）として募集します。

中高生は、京丹後市の地元の企業の協力を得て「Sustainability」をテーマに、4名1チームでワークショップに取り組みます。多様な分野で活躍する企業リーダーたちにインタビューし、ニーズをすくいあげ、チームで協力しながらアイデアをプロトタイプにしていきます。最終日にはチームで協力しながら自分たちのアイデアをわかりやすく英語で発信します。各チーム1名のDTCが、サポート役を務めます。

中高生のワークショップは、スタンフォード大学とトロント大学の研究者が率いるスカイラボが実践してきた「デザイン思考」を用いた探究型STEAM教育カリキュラムをモデルの中核に据えています。
「デザイン思考」にもいろいろな応用や考え方がありますが、ここでは、スカイラボが2016年の設立以来7年間かけて編み出してきた「①教育研究理論に基づき、②日米の社会構造や文化的相違といったクロスカルチャーな側面に配慮した独自のプログラム」を活用します。また「STEAM」という概念にもさまざまな解釈がありますが、スカイラボが研究調査などで培ってきた*STEAM（STEM＋Liberal Arts）という考え方について理解を深めることができます。

DTCになってスカイラボ流のデザイン思考とSTEAMというアプローチを学ぶことで、大学生・大学院生は、今後幅広く応用の効く知識・スキルを身につけ、自らもSTEAM人材としての視座を養うことができます。

＊スカイラボが推進するSTEAM教育のアプローチについては『世界を変えるSTEAM人材ーシリコンバレー「デザイン思考」の核心』（朝日新書）に詳説してあります。

＜DTCとして得られる体験＞

- シリコンバレーで注目される発想法「デザイン思考」と、「STEAM」という教育アプローチを スタンフォード大学、トロント大学の研究者から直接学び、身につけることができる！
- エビデンスベースの社会貢献活動に取り組むことができる！
- グローバル社会が直面する課題を深掘りする作業をサポートしながら、自らも知識を深め視座を養える！
- 国内外から集まる他の大学生と一緒に活動することで、ネットワークを広げることができる！
- リーダーシップスキルやチームワークスキルについて学び、ワークショップで即実践できる！
- インタビューやフォーカスグループといった定性的手法を学べる！

＜スケジュール（全10回（うち5日間泊付き））＞

回	月日	時間	内容	備考
1	6月30日（金）	16時～17時	DTC説明会（参加概要説明）	【オンライン】
2	7月15日（土）	9時～正午	DTCトレーニング①	【オンライン】
3	7月16日（日）	9時～正午	DTCトレーニング②	【オンライン】
4	8月7日（月）	15時30分	京丹後市宿泊先集合（リンク）	集合直後か夕方、翌日にむけた調整Meetingあり
5	8月8日（火）	9時～16時30分	ワークショップ 1日目	プログラム終了直後か夕方、翌日にむけた調整Meetingあり
6	8月9日（水）	9時～15時30分	ワークショップ 2日目	
7	8月10日（木）	9時～16時30分	ワークショップ 3日目	
8	8月11日（金・祝）	9時～16時30分	ワークショップ 4日目	
9	8月12日（土）	9時～16時30分	ワークショップ 5日目	
10	9月2日（土）	9時～正午	フォーカスグループ（事後インタビュー）	【オンライン】

＜募集定員＞ 9名

＜参加条件＞

1 中高生がDesign Thinkingを学ぶ作業をサポートするための英語力・日本語力があること
※英語と日本語の言語サポートの具体例
・中高生の話し合いで、英語でファシリテーター役を務める。
・大学研究者等が話した英語を中高生が理解できないときに、簡単な英語にして伝える。
・中高生がうまく英語で表現できないときに、伝えたい内容を日本語で尋ね、英語の表現を教え支える。

2 STEM(Science, Technolgy, Engineering, and Mathematics)領域で学んでいること、もしくは知識をもっていること

3 教育あるいは、人を育てることに興味があること

4 当事業を通じて行われるスタンフォード大学・トロント大学の研究活動に協力できること

5 DTCトレーニングを含む全ての行程（上記＜スケジュール＞にある全10回）に参加できること

＜費用＞

ワークショップ1日目～5日目に係る以下の費用は、主催者が負担します。

- 京都駅からの交通費（公共交通機関利用分）は、一旦お支払いいただき、後日実費を支給します。
- 昼食代等滞在に係る費用として、10，200円（1，700円x6日間）を、後日支給します。
- 8月7日（月）8日（火）9日（水）10日（木）11日（金・祝）の宿泊先は、京丹後市のビジネスホテルを主催者側で準備します。また、宿泊費（朝食付き）は、主催者が負担します。

＜応募方法と締め切り＞

● 応募方法は、以下に示すアンケートフォームに必要事項をご記入いただき、お申込みください。
https://forms.gle/1DDR8QjVvBKKN3ma7
なお、本アンケートフォームは、京丹後市教育委員会に送付されます。

● 応募締め切りは、**2023年5月21日(日)23時**とします。

＜選考方法＞

第1次選考(ご記入いただいたアンケートフォームの内容)及び
第2次選考(オンライン面接(面接日は後日連絡))によって行います。

＜参考＞

＊**京丹後市**

京都府最北端に位置する人口約5万人の市。200社以上の機械金属業関連会社が集積したハイテク総合産地であり、300年の歴史を有する丹後ちりめんの一大産地でもあります。
2021年5月、SDGs未来都市に選定。また、海・山・里の豊富な食材に恵まれた風光明媚な観光地です。
ウェブサイト:https://www.city.kyotango.lg.jp/

＊**一般社団法人スカイラボ**

次世代のイノベーション人材育成をミッションに2016年に設立された非営利の教育団体です。
スタンフォード大学教育学大学院の研究者らと開発した独自のカリキュラムで、日本の女子中高生を対象にイノベーターとしてのマインドセットやSTEAMという発想法を学ぶワークショップを、日英バイリンガルの環境で実施しています。
ウエブサイト:http://www.skylabo.org/
※ スカイラボでは参加者の学習の様子をデータとして収集・分析し、エビデンスベースの教育活動を行っています。
※ 対面形式で行ったワークショップは2019年に内閣府男女共同参画局後援の認定を受けています。
(内閣府「選択する未来2.0」資料スライドと要旨にスカイラボに関する活動情報が載っています)
※ 京丹後市との連携プログラムについては、ジェンダーフリーで実施します。

ご不明な点がございましたら、京丹後市教育委員会(松本・戸田)までお気軽にお問い合わせください。
電話:0772−69−0620
メールアドレス:gakkokyoiku@city.kyotango.lg.jp

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

京丹後市

事業名

小学生English Camp事業

事業の経過・背景・課題

学習指導要領の実施により英語教育の推進が加速する中、学校で学んだことをアウトプットする機会・経験が少ないといった現状がある。

国際感覚とグローバルな視野を持つ人材の育成を図るため、異文化理解や国際交流に興味関心のある児童生徒を対象に、CIRやALT等による1泊2日の英語を活用した体験プログラムを実施する。

取組内容

交付実績額：　63　千円

〇小学生English Camp

・小学校の5・6年生19名を対象に、CIR（国際交流員）やALT（外国語指導助手）等が考案した英語を活用した様々な活動を体験・挑戦する1泊2日の国際交流プログラムを実施
・活動を通して、外国語や異文化への興味関心を引き出し、また事業の終わりには達成感を得ることで子どもたちの自信につなげる
・英語教員をはじめ、国際的な仕事に興味をもつ高校生がボランティアとして参加することで、キャリア教育につながる機会を創出

〔活動内容〕

・自己紹介
・英語で「色」や「数字」を表現しよう！
・世界の味を楽しもう！料理教室（※）
・伝言ゲーム、フルーツバスケット、読み聞かせ　など

（※）英語を交えて夕食となるハンバーガー作り等に取り組むことで、異国の食文化に触れる機会を提供

事業の成果・今後の展望等

英語漬けの一日を過ごす中で、言語の違いや異文化の違い、様々な表現に触れ、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができた。高校生との英語での触れ合いは、参加児童にとって目標の姿になるとともに、外国に対する興味関心を高め、国際感覚を養うことができた。

今後は、更に留学生や地域在住の外国にルーツのある方に参加いただくなど、より充実した内容のプログラムを提供し、児童の国際感覚の醸成につなげる。

問い合わせ先　京丹後市教育委員会学校教育課（0772-69-0620）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

京丹後市

事業名	**京丹後市教育支援センター管理運営事業**

事業の経過・背景・課題

不登校児童生徒数が増加する中、京丹後市では教育支援センターを設置し、支援員5名体制にて不登校やその傾向にある児童生徒の社会的自立に係る教育相談、学習支援、体験活動などの様々な取組を実践している。一方で、「センターに通所希望をしない」児童生徒やその保護者については支援を届けられていない現状がある。

取組内容

交付実績額：　613　千円

・不登校やその傾向にある児童生徒の「社会的自立」を目指して、教育支援センターの体制強化を図るため、令和5年度に支援員を1名増員
・教育支援センター支援員が小中学校の別室等に登校している児童生徒への支援に関わり、各校の教育相談部会等に参加するなどにより、市内の不登校の状況を把握
・家庭に引きこもりがちな児童生徒の家庭訪問を行うなど、学校と協力しながらより重層的な支援を実施

事業の成果・今後の展望等

市内の不登校児童生徒の出現率は小中学校とも増加となったものの、一部の学年では、令和4年度と比較して継続及び新規の不登校児童生徒の出現率は低くなった。また、不登校児童生徒のうち、学校内外で相談・指導等を受けていない児童生徒の割合は、小中学校ともに全国の平均値を大きく下回った。

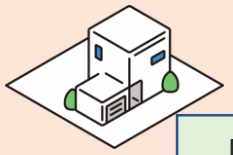
一方で、令和4年度と比較して依然として継続及び新規の出現率が増加している学年もあることから、令和6年度は教育支援センターと連携し、校内に児童生徒が安心して通える居場所を整備するなど、すべての児童生徒とのつながりを作り、将来の社会的自立を目指せるようになるための働きかけを強化する。

問い合わせ先	京丹後市教育委員会学校教育課（0772-69-0620）

誰ひとり取り残されない不登校支援

～子どもの社会的自立のために～

アウトリーチ



民 間

NPO法人
フリースクール

教育支援センター 麦わら

○支援員
○スクールカウンセラーー
○まなび・生活アドバイザー

☆教育相談　☆学習支援
☆様々な取組　☆居場所

連携

家 庭

学校に足が向かない

学校には行けるけど教室に入れない

教室に入っているけど時々しんどくなる

地 域

学園運営協議会
・人材派遣
・登下校見守り
・ボランティア

連携

学 校

◎校内フリースクール(別室)
・心の教室相談員・心の居場所サポーター
と教員が連携
☆教育相談
☆居場所
☆学習支援　等

○教員
○スクールカウンセラー
○まなび・生活アドバイザー
○心の教室相談員
○心の居場所サポーター

組織的支援

☆オンライン授業配信等ICTを活用した
繋がり・居場所
☆アセスメントに基づいた個別最適な支援

連携

行 政

教育委員会事務局
学校教育課

こども部
こども未来課

連携

支援

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	**その他**	

京丹後市

事業名

教職員働き方改革推進事業
(コンサルティング業務委託)

事業の経過・背景・課題

京丹後市教育委員会では、平成30年7月に京丹後市「教職員の働き方改革実行計画」を策定し、教職員の時間外勤務削減に取り組んできたが、未だ目標に到達していない。

コロナ禍において、感染症防止対策と学びの保障の両立のため、行事の重点化等に取り組んだ中で培った経験や、今後更にＩＣＴ活用が進む社会の到来も踏まえ、ＰＯＳＴコロナは全てを元に戻すのではなく、これらをきっかけに教職員が子どもたちと向き合う時間の確保や授業改善につながる働き方改革を進めていく必要がある。

取組内容

交付実績額：　1,229　千円

〇峰山中学校教職員の推進メンバーによる働き方改革への取組に対し、専門の民間コンサルティング業者が月次の打合せを通した以下の伴走支援を実施することで学校の自主的な取組を促進

・峰山中学校における取組への価値づけ
・他自治体や他校での取組事例の共有
・実施方策の提案・壁打ち　等

〇コンサルティング業者によるワークショップの開催

〔生徒とのワークショップ〕（令和5年7月6日開催）
・近年のテクノロジーの変化や教師の1日の過ごし方をインプットし、「もしも自分が教師だったら」という視点で教師への働き方に対する助言のディスカッションを実施
・生徒は、ディスカッション結果を「教師への提案」として発表

〔地域の方々とのワークショップ〕（令和5年12月18日開催）
・保護者や地域関係者が一体となった学校・地域づくりを目指すため、学校運営に対して自らの立場からやりたいことやできることのアイデアを発表

事業の成果・今後の展望等

本事業を通して、働き方改革の効果の見える化を教職員の幸福度及び時間外在校時間数調査により試みた結果、峰山中学校において事業実施前と比較して幸福度は上昇し、時間外在校時間は減少した。（※）

また、生徒とのワークショップにより、生徒からの生の声が聞けたことで、教職員の働き方改革に向けた教師と生徒双方の理解が深まり、教職員が自らの授業を磨くことができただけでなく、生徒と向き合う時間が確保される等、より良い教育環境の整備に向けて前進するための第一歩となった。

（※）〔コンサルティング業者による報告書〕
○幸福度調査（幸せ因子総合得点の平均）：事業実施前52.3%⇒実施後55.7%
○時間外在校時間数：事業実施前と比較して減少した。特に６月、9月については10%以上減少した。

令和５年度は業務改善を中心に取組を推進したが、今後は峰山中学校での取組をモデル化し、他校へそのノウハウ等を展開していくとともに、教職員の資質向上や生徒の学力向上といった、「教育の質の向上」を図る取組にも積極的に挑戦することで、教職員のみならず生徒にとってもより良い学校づくりに取り組む。

問い合わせ先　京丹後市教育委員会学校教育課（0772-69-0620）

実施内容　業務②取組効果を高めるための創意工夫

②-1
生徒とのWS

- 2023年7月6日に、PwCメンバーが主体となり、生徒とのワークショップを開催した。
- 近年のテクノロジーの変化や教師の1日の過ごし方をインプットとし、「もしも自分が教師だったら」という視点で教師への働き方に対する助言のディスカッションを実施。生徒は、ディスカッション結果を「教師への提案」として教師の前で発表した。

当日の流れ

1. ワークショップの趣旨・自己紹介
2. 未来の学び（AI）体験　（15分）
3. 学校はどのように変わっていく？　（10分）
4. もしも自分が先生になったら…　（15分）
5. 今の先生たちを助けてあげよう！　（20分）
6. 発表（16時頃～）

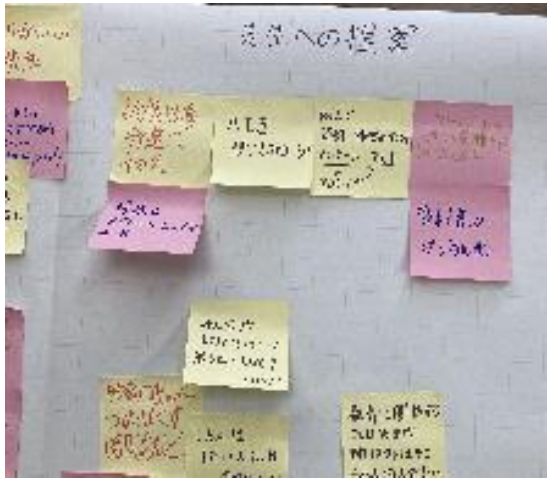
1　みんなでAIを体験してみよう！！

- PwCスタッフが画面投影しながらChatGPTでいくつか質問してみます
- どんなやりとりになるでしょうか。

2　体験した感想を聞かせてください！

- AIの回答はどうでしたか？
- 未来の学びはどう変わっていくと思いますか？

当日の様子

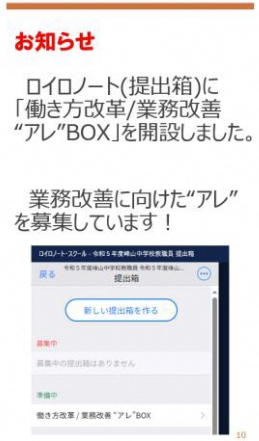


実施内容　業務②取組効果を高めるための創意工夫

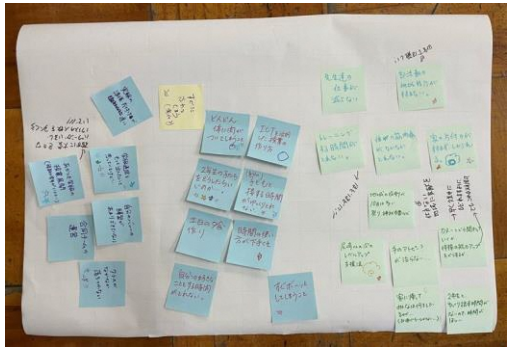
②-2
教師WS

- 2023年10月12日に、推進メンバーが主体となり、教師向けWSを開催した（PwCメンバーはオンラインで参加）。
- 教師の悩みを共有し、働き方以外についても話し合う発散型WSとして運営された。WS後には、推進メンバーがロイロノートで働き方に関するアイディアを募集し、以降の取組につなげた。

当日の資料



当日の様子



実施内容　業務②取組効果を高めるための創意工夫

②-3
地域の方とのWS

- 2023年12月18日に、PwCメンバーが主体となり、さまざまな地域の方とのWSを実施した。
- 保護者や地域関係者と一体となった学校・地域づくりを目指すために、学校運営に対して自らの立場からやりたい/できることのアイディアを発散した。協力的かつ具体的な意見が多く寄せられ、有意義な会となった。

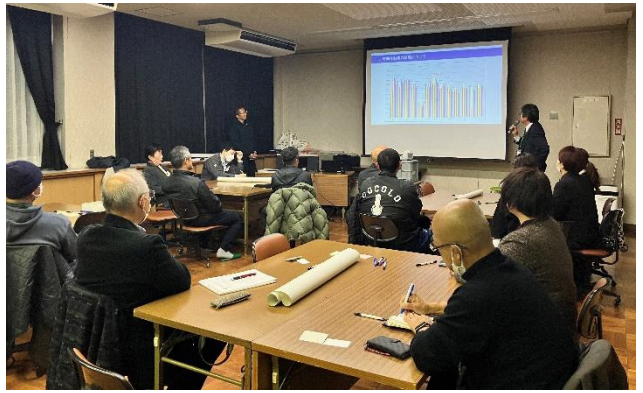
当日の流れ

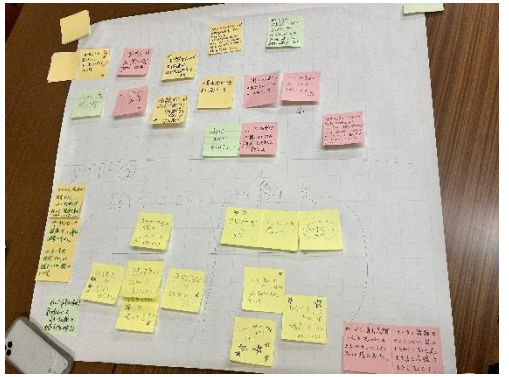
第1部
1. 校長先生からのご挨拶（上田校長先生）　…… 5分
2. これまでの取組の紹介（平林先生）　…… 10分

第2部
1. ワークショップの趣旨の説明　…… 5分
2. グループで自己紹介　…… 10分
3. グループで話し合い　…… 30分
   Step① <グループ>地域・学校の好きなところを共有してみましょう！
   Step② <グループ>自分がやりたい/できることを共有してみましょう！
4. 他のグループの話し合いの内容共有　…… 10分
5. 振り返り・感想の共有　…… 10分

PwC

当日の様子





学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	**その他**	

京丹後市

事業名

教職員働き方改革推進事業（採点支援システム導入）

事業の経過・背景・課題

京丹後市では国のＧＩＧＡスクール構想に伴い、ＩＣＴを活用した授業の質的向上を図るとともに、教職員の業務効率化を図るため、ＩＣＴ環境の整備を進めているが、教職員の業務の一つであるテストの採点・集計業務は、正確な処理が求められ、時間と手間がかかることから長時間労働の要因となっている。

取組内容

交付実績額：　165　千円

〇特に生徒数の多い３中学校（峰山・大宮・網野）において、紙媒体のテストをスキャナで読み取り、画像データ化したものをパソコン上で採点することができるクリップ採点支援システム（EdLog）を導入

〔採点システム活用による主な効果〕
・中間・期末テスト等の採点業務が効率化
・正答率等の自動集計により、クラスの解答の傾向が数値化されるため、
　弱点対策などテストの振り返りができる
・結果がデータとして残るため、集計や成績管理など採点作業後の事務も効率化

⇒教職員の業務が効率化されることで生徒と向き合う時間を確保

事業の成果・今後の展望等

採点支援システムを導入した３校において、時間外実績を令和４年度と比較したところ、特に本システムを活用した中間・期末テストの実施期間である6月、10月、11月において、時間外勤務が減少した。（※）

採点業務の削減は、教職員の心理的負担の軽減や時間外の削減により教職員自らの授業を磨くことができるだけでなく、生活指導や日常的な相談など、子どもたちと向き合う時間が確保されることで、個別最適な指導を行うことが可能となり、より良い教育環境の実現につながった。

（※）「時間外減少率」6月：12%　10月：5.83%　11月：6.99%

問い合わせ先　京丹後市教育委員会学校教育課（0772-69-0620）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	**その他**	

京丹後市

事業名

京丹後市の新たな教育・人材育成の在り方に関する検討会事業

事業の経過・背景・課題

京丹後市では、就学前から中学校卒業までの10年間を見通した「保幼小中一貫教育」を基礎に、地域素材（人、環境、文化、産業）を取り入れた探究的な学習「丹後学」をはじめ、Sea Labo、プログラミング教育、AIアプリの導入など特色ある教育活動を実施しているが、スポット的な取組となっている。

これらの取組が一過性のものではなく、社会の変化に沿った体系的な教育活動としていく必要がある。

取組内容

交付実績額：　445　千円

○「京丹後市の新たな教育・人材育成の在り方に関する検討会」を設置

・これまでの様々な取組を基礎としつつ、Society5.0に対応した体系的な教育活動となるよう、教育関係者をはじめ地元産業界、外部有識者の知見踏まえ、（１）～（３）について検討を進める

（1）地域資源を織り込んだSociety5.0に対応する教育内容

（2）教育効果と地域の付加価値を最大化するシームレスな制度の在り方

（3）地域・産業界と連携した教育・人材育成の在り方　等

〔検討会各回議題〕

令和５年４月　論点整理

令和５年６月　教育内容・制度の在り方について

令和５年７月　教育制度の在り方について

令和５年８月　中間まとめ（案）について

令和５年10月　子どもたちへのアンケート結果について

令和６年１月　最終まとめ（案）について

※令和６年１月22日総合教育会議において「最終まとめ」を報告

事業の成果・今後の展望等

具体的な施策として、学びの変革に向けた「丹後学」の見直しやＩＣＴを活用した遠隔教育特例校制度の活用、「子ども主体」の学び舎の再設計に向けた空間デザインの見直しや働き方改革、学びのボーダレス化に向けた中高連携の促進や制度の在り方の検討、地域まるごと化に向けた学校・地域・企業のプラットフォーム構築などが提示され、京丹後市が目指すべき教育・人材育成の方向性が示された。

検討会の成果を、令和６年度に見直す予定の教育振興計画及び教育大綱における施策に落とし込み、「学びのタクト（イニシアティブ）を子どもへ手わたしていく教育」を目指し、体系的な教育活動を実践する。

問い合わせ先　京丹後市教育委員会学校教育課（0772-69-0620）